

フォンス・フローリス古楽院

関西講座発表会

フォンス・フローリス古楽院は、西欧中世・ルネサンス・バロックの時代の音楽を、主に歌のアンサンブルを中心として実践する人たちのための学びの場です。古い音楽にふさわしい発声の基本、記譜法、声と声あるいは声と楽器のアンサンブル、言語の感覚、音楽史の知識、そして古い音楽の持つ深い霊性と高貴な精神性を、様々な楽曲を通して、楽しみながら学んでいます。

発表会ではグレゴリオ聖歌とルネサンス音楽を古い典礼の流れに沿って演奏します。今年のテーマは聖母マリアの受胎告知を記念する祝日のミサです。勉強と練習の成果をお聴きいただければ幸いです。



【演奏曲】

グレゴリオ聖歌、ハインリヒ・イサーク『コラーリス・コンスタンティヌス』より 聖母マリアのお告げ(受胎告知)の祝日のミサ固有唱
Gregorian chant, Heinrich Isaac (ca.1450/55-1517), *Choralis Constantinus*

Proprium Missae in Annuntiatione Beatae Mariae Virginis

ギヨーム・デュファイ ミサ《見よ、主のはしため》

Guillaume Du Fay (1397?-1474), *Missa Ecce ancilla Domini*

2015年11月8日(日) 午後4時

母の家ベテル 入場無料

問い合わせ：井上 ecclatin@aol.com 06-7172-8959

【指揮・指導】花井哲郎

古楽演奏家。早稲田大学第一文学部哲学専攻卒業後、アムステルダム・スウェーリンク音楽院にて、オルガンとチェンバロを学ぶ。ロッテルダム音楽院において合唱指揮と管弦楽指揮のディプロマを取得。ブラバント音楽院にて古楽声楽アンサンブルをレベッカ・ステュワートに師事。滞欧中、教会音楽家、合唱指揮者、鍵盤楽器奏者として活動し、またグレゴリオ聖歌の研究・演奏活動にも従事する。1997年に東京にて「ヴォーカル・アンサンブル カペラ」を創設、以来ルネサンス・フランドルの宗教作品の演奏を続ける。2005年には「古楽アンサンブル コントラポント」を結成、リーダーとして17世紀を中心としたバロックの宗教音楽演奏にも力を注ぐ。また、古楽をレパートリーとするアマチュアのアンサンブル、合唱団、管弦楽団などを指導するほか、グレゴリオ聖歌とルネサンス音楽の普及活動を行う。フォンス・フローリス古楽院院長、国立音楽大学講師。



【演奏】フォンス・フローリス古楽院関西講座2015

「総合講座 グレゴリオ聖歌とルネサンス音楽を歌う」

「アンサンブルクラス デュファイを歌う」受講生



「母の家ベテル」阪急神戸線「御影」駅 徒歩7分

主催：フォンス・フローリス

フォンス・フローリス
Fons Flovis